

答申文化財の概要

●旧和田家住宅（松井家住宅）店舗兼主屋

奈良町に位置する旧呉服商の店舗兼主屋。通りに西面する二階建で外壁は黒漆喰塗で軒を現し、窓周囲に額縁を廻らし、両端部に袖壁^{注1)}を付す。一階はかつて通り土間沿いに三室を配し、二階東に端正な座敷を残す。建ちが高く時代相を伝える町家。現在は住居兼ギャラリーとして活用。

・旧和田家住宅（松井家住宅）店舗兼主屋

所在地 奈良県奈良市
建築年代 大正前期／昭和24年頃・令和4年改修
構造・形式・規模 木造2階建、瓦葺、建築面積54m²

注1) 袖壁 2階建ての民家において、2階の軒下両側に設けられた壁の総称。

●善行寺

藤原宮跡の南西に位置する浄土真宗寺院。境内北西に南面して建つ本堂の東に客殿、南西に宝蔵、鐘楼、境内南辺中央部に集会場、太鼓樓、境内中央に手水舎、境内南辺に山門と小門を開け、境内南西部を南面西屏、西面南屏、西面北屏が画す。本堂は入母屋造本瓦葺で正面に一間向拝を付す。外陣は円柱を立て、差物を縦横に架けて固め、内陣廻りは彫刻や彩色で荘厳を極めた江戸末期の大規模な本堂。客殿は入母屋造妻入本瓦葺で銅板葺の軒唐破風を付し、式台^{注2)}を構える。本堂と並び建ち境内景観を印象づける。宝蔵は土蔵造2階建てで頂部に露盤宝珠を飾り、正面に軒唐破風を付す。重厚な外観で寺觀を整える。鐘楼は円柱を四方転び^{注3)}にて立て、内部は石敷の土間で小組格天井^{注4)}を張り、梵鐘を吊る。躰股や獅子鼻など彫刻優秀な鐘楼。集会場は正面にガラス戸を建て、内部は板敷の1室で棹縁天井^{注5)}を張り、集会室とする。太鼓樓に並び建ち、境内の歴史的景観を形成する。太鼓樓は入母屋造の棟中央に方1間の入母屋造2階をのせ、全体本瓦葺。城郭風の外観が真宗寺院の象徴的な存在。手水舎は成の高い礎石上に角柱を四方転びにて立て、内部は南に井戸、北に手水鉢を配す。簡素ながらも境内景観に欠かせない手水舎。山門は1間の薬医門。ケヤキの良材を用い、腕木や梁先端に流麗な絵様^{注6)}、躰股^{注7)}などを彫刻で飾り華やかな門。小門は1間1戸の薬医門。小規模ながら本瓦葺の重厚な門。南面西屏は延長5.6メートル、切石積基礎に半間毎に柱を立て、腕木で軒を支える。西面南屏は延長12メートル、コンクリートブロック造の屏で屋根桟瓦葺。西面北屏は木造、延長14メートル。自然石積基礎で土台上に半間毎に柱を立て内側に控柱を付す。いずれも通りに面して寺院境内の歴史的景観をつくる。

答申文化財の概要

・善行寺本堂

所在地 奈良県橿原市
建築年代 安政7年（1860）／昭和12年改修
構造・形式・規模 木造平屋建、瓦葺、建築面積432m²

・善行寺客殿

所在地 奈良県橿原市
建築年代 明治中期／平成11年改修
構造・形式・規模 木造平屋建、瓦葺一部銅板葺、建築面積67m²

・善行寺宝蔵

所在地 奈良県橿原市
建築年代 明治9年
構造・形式・規模 土蔵造2階建、瓦葺、建築面積17m²

・善行寺鐘楼

所在地 奈良県橿原市
建築年代 天保10年（1839）／昭和13年改修
構造・形式・規模 木造、瓦葺、建築面積7.7m²

・善行寺集会場

所在地 奈良県橿原市
建築年代 昭和4年
構造・形式・規模 木造平屋建、瓦葺、建築面積23m²

・善行寺太鼓楼

所在地 奈良県橿原市
建築年代 昭和30年
構造・形式・規模 木造2階建、瓦葺、建築面積34m²

・善行寺手水舎

所在地 奈良県橿原市
建築年代 明治中期
構造・形式・規模 木造、瓦葺、建築面積3.8m²、井戸及び手水鉢付

答申文化財の概要

・善行寺山門

所在地 奈良県橿原市
建築年代 寛政10年（1798）
構造・形式・規模 木造、瓦葺、間口2.7m、左右袖塀付

・善行寺小門

所在地 奈良県橿原市
建築年代 昭和4年／平成10年改修
構造・形式・規模 木造、瓦葺、間口2.1m、袖塀付

・善行寺南面西塀

所在地 奈良県橿原市
建築年代 昭和中期
構造・形式・規模 木造、瓦葺、延長5.6m

・善行寺西面南塀

所在地 奈良県橿原市
建築年代 昭和中期
構造・形式・規模 コンクリートブロック造、瓦葺、延長12m

・善行寺西面北塀

所在地 奈良県橿原市
建築年代 昭和中期
構造・形式・規模 木造、瓦葺、延長14m

注2) 式台 住宅における公式の出入口、すなわち玄関の前に設けられた板敷きの部分。

注3) 四方転び 4本の脚が上方において平面中心方向に同程度傾斜しているのをいう。

注4) 格天井 角の材を縦横に組み合わせ裏板を張った天井。四周は周り縁でおさめる。

注5) 竿縁天井 天井板の下板を細い材を並べて支えた天井の総称。

注6) 絵様 建築の木鼻、蟇股などの部分に施された彫刻または絵模様。唐草、若草、波、雲などの形を決って作り出す。

注7) 蟇股 梁の上にあって上の虹梁、桁、棟木などの上部の荷重を支える横広がりの装飾的部材。蛙が股を広げたような形をしているので、この称がある。

答申文化財の概要（写真）



旧和田家住宅（松井家住宅）店舗兼主屋（奈良市教育委員会提供）

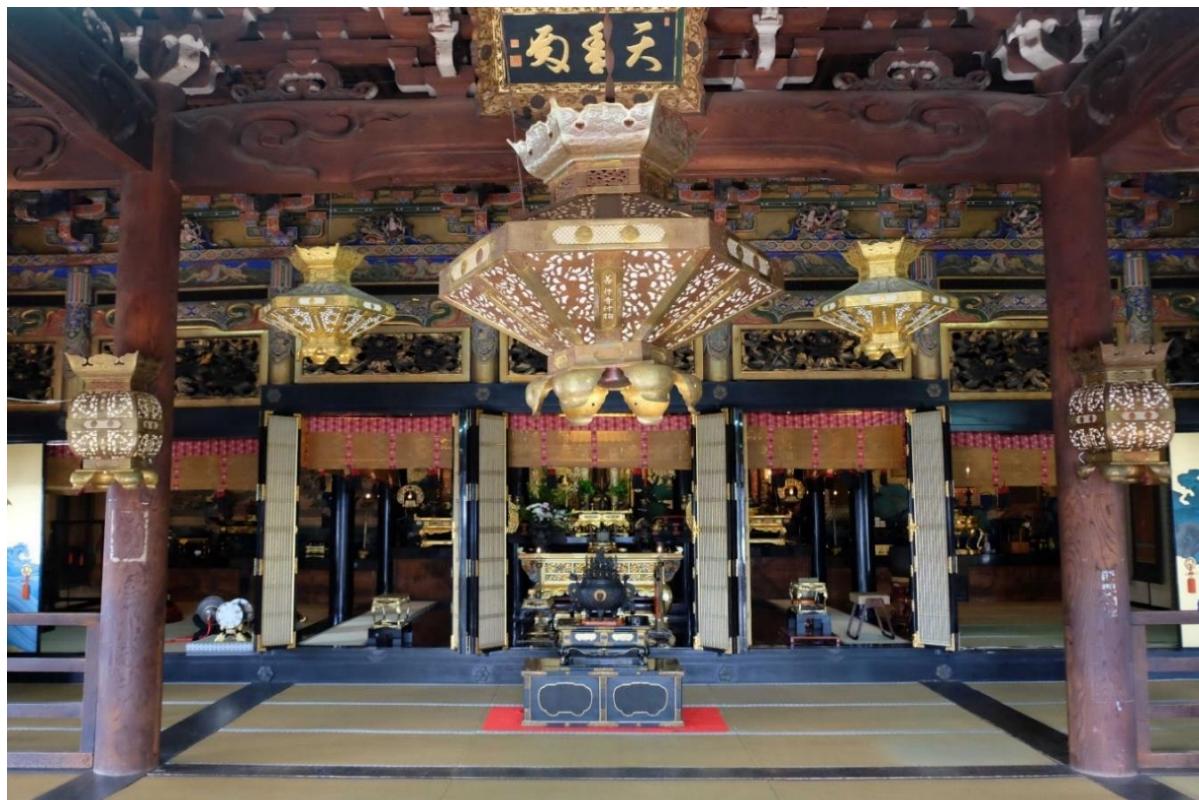


旧和田家住宅（松井家住宅）店舗兼主屋（奈良市教育委員会提供）

答申文化財の概要（写真）



善行寺本堂



善行寺本堂

答申文化財の概要（写真）



善行寺客殿

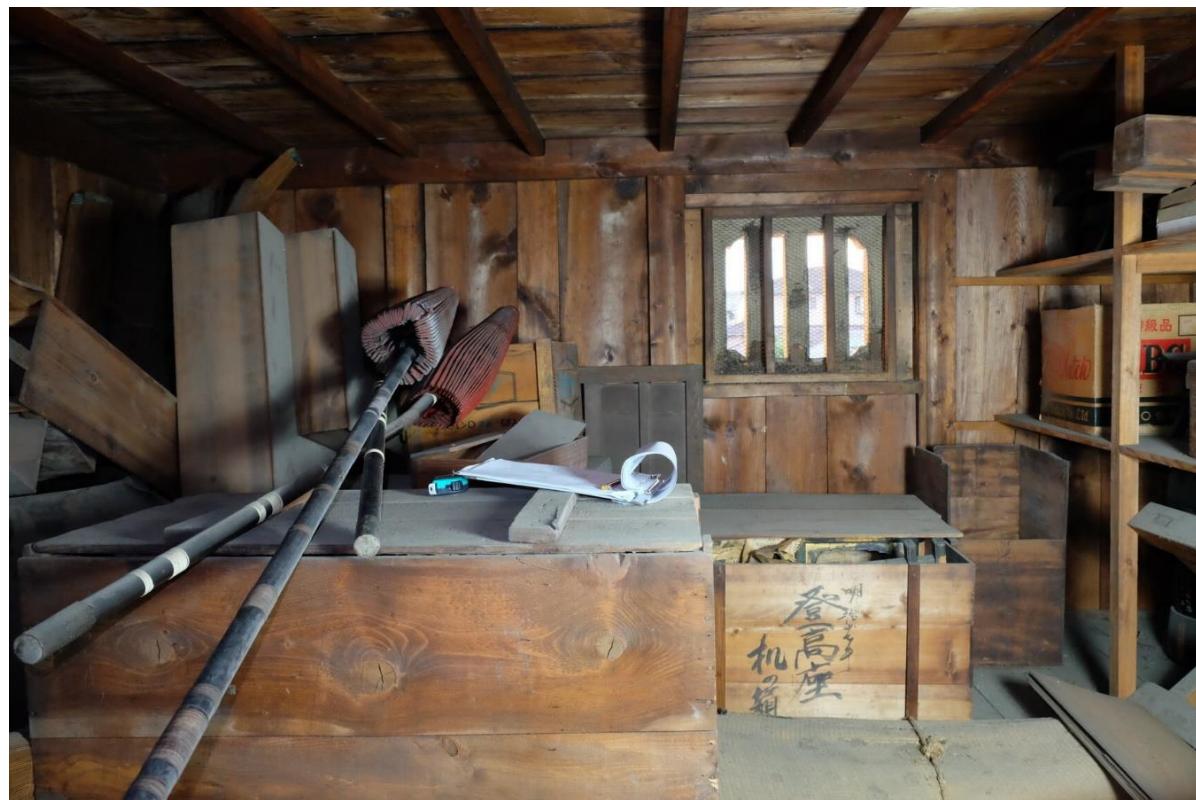


善行寺客殿

答申文化財の概要（写真）



善行寺宝蔵



善行寺宝蔵

答申文化財の概要（写真）



善行寺鐘樓



善行寺鐘樓

答申文化財の概要（写真）



善行寺集会所



善行寺集会所

答申文化財の概要（写真）



善行寺太鼓楼



善行寺太鼓楼

答申文化財の概要（写真）



善行寺手水舎



善行寺手水舎

答申文化財の概要（写真）



善行寺山門



善行寺山門

答申文化財の概要（写真）



善行寺小門



善行寺小門

答申文化財の概要（写真）



善行寺南面西塀



善行寺南面西塀

答申文化財の概要（写真）



善行寺西面南屏



善行寺西面南屏

答申文化財の概要（写真）



善行寺西面北塀



善行寺西面北塀